

# 兵庫県立芸術文化センター

総務部 総務企画担当課

波多野 伽歩

---

## コロナ禍における劇場の取組と今後の課題

私は総務部所属のため、直接的に劇場を発信する業務に関わることはありません。そこで、間接的な立場から感じるコロナ禍の劇場の取組と課題について 2 つ述べたいと思います。あわせて、直接的に劇場の発信について関わっている事業部からヒアリングを行うことで、今後の課題について述べます。

最初に、コロナ禍の長期化に伴う、換気の取組と今後のコスト負担について、次に、新型コロナウイルス感染症対策のために実施している PCR 検査の取組と対応職員の疲弊について、最後に事業部が感じている今後の課題について述べたいと思います。

1 つ目は、コロナ禍の長期化に伴う、換気の取組と今後のコスト負担についてです。

現在よりもガイドラインが厳しかった令和元年から令和 3 年の間、前後左右の席は空ける取組や、収容人数を 50 パーセントに制限する取組、ホールを常に換気することが推奨され、実施されてきました。現在も、換気への取組は継続されており、換気の取組を行うことで公演が開催できている一方で、劇場の換気機能にかかるコスト負担が大幅に増大しているように思います。コロナ感染症対策として換気は有効な反面、コスト負担を大幅に加速させていることも事実であり、今後の課題として換気コスト負担については気になりました。

2 つ目は、新型コロナウイルス感染症対策のために実施している PCR 検査への取組と対応職員の疲弊についてです。自主事業・貸館事業、それぞれの公演で、定められたガイドラインや要望に応じて PCR 検査を実施しています。コロナ感染者の濃厚接触者に該当する人や体調不良者に対しての迅速な対応・把握に勤めています。このような対応を実施していることもあり公演が開催できています。事業を担当職員は、大勢の公演出演者・舞台技術スタッフ・増援スタッフに対しての PCR 検査キット管理事務や検査準備事務に追われていることも事実です。通常の業務に加え、新型コロナウイルス感染拡大予防のための業務が生じていることで、職員が疲弊を感じてしまうことは否めません。

また事業部が感じていることとして、コロナ禍以前には劇場で公演を鑑賞していたお客様のうち一定数の方が、現在は劇場で公演を鑑賞しなくなったことが挙げられます。

コロナ禍を経験し、生活の見直しを行った人は沢山いるのかもしれませんが。新しく始めた

こともあれば、やめてしまったこともあると思います。お客様に、生の公演を見ることに再び関心を持っていただき、繋がりを取り戻すための取組を考えて行くことは、今後の課題となっています。僭越ながら、この意見を聞き、私個人はお客様に対して目標を持っていただけるようなアクションが必要だと考えています。例えば、やせるためにジムに通う人たちはやせるという目標があるため、ジムに通います。ならば、劇場に足を運ぶための目標をこちらから提示することも一つのアイデアだと思ったからです。

コロナ禍における劇場の取組と今後の課題について考察を行う中で、バランスよく劇場について考えて行くことが重要だと感じました。総務部として感じるコストや職員の負担の面についてだけでなく、事業部が感じる課題について、両者の視点からバランスよく考えることができたのでそのように思いました。

最後に、本文化庁事業での特別講座動画「13. 公立劇場・ホールを知る、その現状と課題」では「舞台芸術無関心層へのアプローチ」の重要性について発信されていましたが、私がい実際にその重要性を体験したことについて共有させてください。

私は、中学生の授業の一環として実施されている職業体験授業の受入を担当しています。この職業体験授業の趣旨は「中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援する」（文部科学省、地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」より）ことです。また、「トライやる・ウィーク」への取組を通じて、「学校・家庭・地域社会の連携を深め、社会全体で子どもたちの人間形成や社会的自立の支援を行うことで、子どもたちを中心とした地域コミュニティの構築へと発展することを期待するもの」とされています。

活動の一環として、参加生徒たちには自分たちで公演内容を考えてもらい、演者側・裏方側の両方を体験してもらいました。公演内容としては、演奏会・合唱・朗読・ダンスなどを行いました。職業体験に参加した生徒達の全員が、公演終了後には達成感溢れる顔をしていました。もともと舞台芸術に親しみのない参加生徒も舞台芸術のことを知ることができたと思います。舞台芸術無関心層にアプローチし続けていくことが、将来のお客様となり、アーティストとして足を運んでくれるかもしれないと期待をいただきました。

引用：地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/05010502/026/007/001/006.htm?msckid=461e1968cea611ec86f6eabb7d677cca](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/007/001/006.htm?msckid=461e1968cea611ec86f6eabb7d677cca)